



始まりの地MASUDAから 世界のMATRIXへ進化する

一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会(MCSCC)は、2018年10月29日に設立されて以来、IoT/センサー等の技術を活用したサイバースペースとリアル空間の融合を通じ、人々がより健康で、より環境に負荷をかけずに暮らせるスマートシティの創造を目的として、私たちの「始まりの地」島根県益田市において、自治体と連携しながら各種のプロジェクトを行ってまいりました。

2019年には国土交通省の「スマートシティ先行15モデル事業」に選定され、東京などの大都市だけではなく、地方都市でも実現できる汎用性の高いスマートシティのあり方を模索してきたところで

このたび、MCSCCは、日本のスマートシティのフロントランナーの一人として新たな課題に挑戦を続けていくため、次のような組織改編を行うこととしました。

1. 組織としての進化

- 「一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会」を「一般社団法人サイバースマートシティ創造協議会 (英語名称: Matrix of Cyber Smart City Consortium)」と改称し(2021年3月6日理事会決定)、益田市をはじめとする各地域に置かれるコンソーシアム(推進協議会)を束ねる全国団体に改組する。
- MCSCCの英語名称に冠した「Matrix」は、「なにものかを生み出す、創造する母体」を意味することばであり、全国各地や世界(新興国)に広がるコンソーシアムを生み出す母体として機能していきたいという私たちの思いを込めている。

2. 具体的な改革の内容

- 島根県益田市のほか、現在キャンパスを置いている各地域(全国11地域~うち2地域は準備室)において、地方自治体や地元企業等と連携し、順次、地域コンソーシアム立上げに着手する。
- グローバルヘッドクォーターは、全国及び

世界を俯瞰する観点から、東京都港区に移転し、関係省庁等との連携を深めることを目指す。なお、従来益田市に置いていたグローバルヘッドクォーターは益田キャンパス(活動拠点)として継続する。

- 会員企業である株式会社アドミン(山口知宏代表取締役社長/長崎県長崎市)と提携し、長崎市出島町にMCSCCのFiwareデータセンターを置く。

上記の改編については、本年3月6日の理事会決定以降、年度単位のプロジェクト以外では実務上適用しており、国土交通省プロジェクトの最終報告等を踏まえて法手続等を進めることとなります。

MCSCCは島根県益田市で産声を上げたときから、あるいはMCSCC創設以前まで遡り創設メンバーと重なる有志により長崎で「IoT出島同盟」を立ち上げたときからも一貫して、全国各地でルーラル型スマートシティ実現に向けた取組を行うことを目指しております。中でも、島根県益田市は最初の取組を行った「出発点」であり、MCSCCにとってシンボルともいふべき特別な場所となっています。

この「始まりの地」MASUDAで培った、技術主導型ではなく地域の課題を抽出して対応策を生み出し、最適な技術を有する企業・団体・学術機関と連携して解決を目指す手法「益田スタイル」を全国・世界に展開し、世界のスマートシティを生み出す「母体・基盤=MATRIX」へ進化するステージへと歩みを進めます。

なお、ロゴマークの「M」はMasudaのMであり、同時に中国(及び江戸期にその影響を強く受けた長崎)で「福」につながるとされた「蝙蝠」をシンボル化したものですが、改編後のMCSCCでは①始まりの地・益田のM、②蝙蝠、③新たに目指す世界のスマートシティの母体・基盤(マトリックス)のMを重ね合わせたシンボルとなります。

MCSCCのHP/メール変更

ホームページアドレス、メールアドレスともに以下のように変わりました。よろしくお願ひします。

<https://matrix-cyber.org/>
contact@matrix-cyber.org